
ギルティギ.....あれっ？

鯨クリーム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ギルティギ……あれっ？

【Nコード】

N1163M

【作者名】

鰯クリーム

【あらすじ】

ある日、オタクの主人公、「蒼原 当夜」は幼なじみの少女と遊園地でデートを楽しんでいた。

だが当夜は偶然黒づくめの男達の怪しげな取引を目撃してしまい、気付いたら男の娘になって展開はありません。

この物語は、ニコ動画が大好きな主人公が神の手違いで殺されてお詫びにチートな力を持ったまま、好きな世界に転生する物語です

この物語には、チート過ぎ・俺tueeeeeなどの要素が含

まれています、嫌いな方は戻るボタンでバックしてください。
因みに作者は文才が無いです。過度な期待はしないでください。
指摘などを下さると作者は狂喜乱舞します。

プロローグ（前書き）

この物語は、現代文の評定が低い作者が書いています。
過度な期待はしないでください。

プロローグ

プロローグ

side 蒼原 当夜

「…知らない天井だ」

此処は一体何処だ？俺は部屋で引きこもりながらMUGENの動画を観てたはず…

辺りを見回してもそこには白い空間が広がって…

広がって…

ひろが…

なんかねどう見ても幼女に死か見えないのがブルブル震えながら土下座してた。

「あゝえゝつとなにしと「サーセンしたあ！！」んの！？」

いや、だってそうでしょ声かけてみたらいきなり幼女が謝罪してきたんだよ！？意味わかんねえじゃん。

とりあえず、この幼女（？）に此処は一体何処か聞いてみるか？

「あのs「ホント、すいあせんしたあ！！間違いで、あなたんこと殺つちやいましたあ（泣）」what？」

なっなんですとおおおおおお

……30分後

「成る程、お前がニコ動画見てたら間違えて俺の寿命のデータを消しちゃったと。」

「はいいい、そうなんですう、私、いっつも何処か抜けてて…」
なるほどゝ それなら仕方ないって

「思うか、この幼女があああああ」

「いっ痛いです！痛いです！お詫びに好きな世界に転生させてあげますから、許してくださいいいいい！！？」

なん……だと…！？

この幼女、今なんていった？転生？マジで？

「おい、」

「ふみゆ？」

「ホント、に転生できるの？」

「できるのです！最高神であるこのゼウスにできないことは無いですよ」

「ちよい待て、今ゼウスって「はい、私が第193代目ゼウスです」

ゼウスって代わり制なのか？

「それでた「何ですか」「GGの世界に転生したいんだけど」

「御安い御用ですうでも危険な世界なので能力を決めさせてあげますう」

「マジで！？」

能力ということは、つ・い・にチート主人公になれる時が

「こん中の奴をあげるですう」

「分かったってwww」

中身

・オールステータスカンスト

・不老不死

・MUGENくじ引き

「あのさ、「はい？」チート過ぎね？」

「チートにするならことんチートにしようと思ひまして」

「あつそ。でこのくじは？」

「それは、くじを引いて書いてあるキャラの技が使えるのですよ」

「なんでMUGEN？」

「私がMUGEN好きだからですう」

「おk、把握。」

さう引いてみるかね「10回まで引けるですよ」「OKって10もかよっ！？」

……ただいまくじ引き中

「なんぞこれ」

「うわぁwwww まぁ頑張っ行ってきてください」

そして、俺は足下のスキマっポイものに落ちていった……

ブローグ（後書き）

やっちまったwwwwwwwwwwwwwww

なにこのgdgd感は？

この物語は、現代文の評定がよくなり次第直すので、その日までこんな文才が無い作者ですがお付き合いください

もしよかったら、指摘などを下さると作者は狂喜乱舞します

主人公設定（前書き）

主人公設定書いてみた

主人公設定

転生前 蒼原 当夜

転生後 アーデル・バーンシュタイン

ステータス

A t c 999

D e f 999

ゲージ常時MAX

(ただし、本人は気付いていない)

幸運 可哀想な程低い

くじ引きの結果

ゲーニッツ

イグニス

スペランカー先生

東方不敗

ルガル

復讐貴

しょぼーん

EXゼットン

大門先生(KOF)

次元意志

各キャラの性能はMUGEN参照

主人公について

部屋で引きこもりながらニコニコ動画を観てたはずなのに、ゼウスに間違いで殺された少年

GG世界に転生し好きなキャラの攻略を目指す

主人公設定（後書き）

リア友との会話で決めてみました

鯖クリーム「主人公になに使わせる？」

リア友A「エターナルフォースブリザードwww」

リア友B「イグニス」リア友C「鬼巫女www」

まともなのリア友Bしか居なかったwww

第1話 正義（ジャスティス）？いいえ正義（まさよし）ですby 蒼原 当夜

この物語は現代文の評定が低い作者が書いています。過度な期待はしないでください

第1話 正義（ジャスティス）？いいえ正義（まさよし）ですby 蒼原 当座

S
i
d
e

当
夜

「イ
エ
ア
ア
ア
ア
ア
」

ただいま、俺落下中です。というか……

「地面に降ろせや！あんの、クソゼウスが」

宗教関係の人が聞いたら切れそうな言葉を吐いてたら、地面が近づいて……

ギルティギ……あれっ？ 完

「じゃねええええ！」

いやあ、オルステカンストが役に立ったな、普通だったら死んでたぜ。

さてと、今はどの時代なのやら？」

そして、俺は歩き始めた、

3時間後

「流派つ 東方不敗が最終奥義つ 石破天驚拳！！」

どうも、蒼原 当夜です。

ただいま、無数のギア相手に無双中です。

歩いてたら、其処らじゆうに、聖騎士団の団員の人 が倒れてたんで
 気付いたけど今、この時代は聖戦の真っ只中らしい。

そして、俺の今の状況と言うと……Ｔシャツにジーパン

ギアから見れば格好の的です。分かります

「良い度胸じゃねえか、ギア風情がこのチートの塊に齒向かうとどうなるか教えてやらあああああ!!!!」

そんなもって冒頭に戻ると……いやあ、すつきりしたわあギア相手にカッコつけて「お別れです」やら「天から落ちよ!」とか決めた時はテンション上がったわあ。

だからこそ、俺は気づくことができなかった。後ろからの強者の存在に

「ほお、背徳の炎や、斬竜刀の男以外にも楽しめそうな奴がいたな」

独特の機械的な声

振り向いた、そのさきに居たのは、燃え盛るような真紅の髪。

青と白のカラーリング。

腰から生えた強化骨格のような尻尾。

完成型ギア壱号機、最強にして最悪のギア

「ジャステイス」が其処に立っていた。

その威圧感、存在感に足が震える

だが、こちらのことなぞ気にせず、そいつは紡ぎ続ける

HEVEN or HELL

「貴様は、私達にとって害なす者に為りそうだな」

恐怖の反面、期待の感情もある。

画面の中だけであつた存在が前に居る。己が何処まで行けるか知りたい。

（やべえ、俺はこんなキャラだったっけ？）

Let's Rock

「故に、貴様には此処で消えて貰う」

まだ力は存分に使えない、でも今、前に居る強弱と闘いたいっ!!

DUEL

瞬間、世界が爆ぜた

（先手必勝っ「おらあああああっ」

右肩を狙って上段蹴りを放つが避けられる

その僅かな隙にジャステイスの黒い指が伸び細い剣のようになり、蒼い雷を宿しそれが俺の身体を引き裂こうとする。

だけど、コツチだってチートなんでね

「ツツ!？」

驚愕の声を挙げるジャステイス

そりゃそうだついさっきまでいた奴が後ろに現れたんだから

「ダークネスフィンガー!」

東方不敗の技をジャステイスにぶちこもうとする、が、ジャステイスが尻尾を盾のように構え届かない。

「調子に乗りすぎだな、人間」

ガードからヴァルキリーアークに繋がられ体を空中に投げ出される。

（やばっ）

気付いた時には腕が振りおろされていた

「がつふっ、かはっ」

頭がクラクラする

だけど休んでる隙なんて無い

「がああああああ」

ルガールのジェノサイドカッターを放つが避けられる、だがそんなのは想定済み!

ゲーニツツの風の力でジャステイスは体勢を崩した!

「あゝ ああああああああ」

そのまま、ルガールの3連運送に流し込む1回目ッ!2回目ッ!3回目ッ!ジャステイスの額の部分にヒビが入っていた、だけど、それがまずかった

「SYAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA

AAAAAAAA!!!」

髪を逆立たせ、大気を震えさせている

（まさか、暴走しちゃった？）

「GYAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAAA!!!」

ジャステイスは叫びながらガンマレイを撃ってくる

速さは避けるだけで精一杯、近づくことなど不可能

（おいおい、ジャステイスチート過ぎんだろ）

そんな思考が頭を過った瞬間、

「があゝあゝあゝゝゝ」

イタイイタイイタイイタイイタイイタイ

左腕が肘から先が吹き飛んだ

痛みで意識が朦朧としはじめ最後に見たのは聖騎士団ソルに似た男
が横から一発ぶちこんだところだった

それから、俺の意識は暗いなにかに沈んでった……

第1話 正義（ジャスティス）？いいえ正義（まさよし）ですby 蒼原 当在

というわけで初戦闘シーンでした。

戦闘シーン難しス

多分後2〜3話シリアスぽいのやったら

コメディー8戦闘2ぐらいで書こうと思います。

最後にこの物語は現代文の評定が低い作者が書いています。過度な期待はしないでください。指摘などを下さると作者は狂喜乱舞します。

チート過ぎる力持っても、使いこなせなきゃ意味ないですう by ゼウス（前

テストが近くて投稿が遅れてしまいました

この物語は現代文の評定が低い作者が書いています。過度な期待はしないでください。

チート過ぎる力持っても、使いこなせなきゃ意味ないですう by ゼウス

「知ってる天井だ……」

真っ白の空間が其処には広がって…あれっ？

「もしかして、俺ってまたし「死んでないですよ」」出やがったな、クソゼウス。」

この目の前に居る最高神（笑）には、本当に世話になったからなあ、いきなり上空に放り出されるし……

「なあ。」

「なんですかあ？」

（とてとて ゼウスが近づいてくる）

（ガッ 俺がゼウスの頭をわし掴みにする）

（ブオン！ブオン！ 頭を掴んだまま振り回す音）

「この恨みはらさておくべきか」！

「いつ痛いです！頭が、もげちゃいますう」！？ポロって！ポロって逝っちゃいますう」！？」

グロいグロいwww

とりあえず、仕返しはすんだので本題を切り出してみる

「さっき俺はまだ死んでないって言ってたけど、じゃあなんで此処

に居るんだ。」

「それはですねえ」

あまりにも力を使いこなせて無かったから呼んだのですよう」

力を使いこなせてない…だと…！？

つまり、あれで使いこなせなかったというのか？ギア相手に無双してたのに、あれで使いこなせなかったのか……

「具体的には、本来ならあなたは最強の力を持つてるんですう。

でも、今のあなたじゃ、良くてEX閻慈くらいなのですう。だから、
見てるコッチがイラついたので、ジャステイスを弄ってG・ジャステイスにしたのです」

ゴッデスジャステイス

Goddess Justice

MUGENに登場するジャステイスの改変キャラ

当たり判定無し・オーバーフロー・即死・超即死を持つイカれキャラ

因みに作者は何をとち狂ったかは判らないが、自分のMUGENに入れようと目下搜索中である

「だから、アナタが勝てる確率は0%だったんですう（笑）ってどうしたんですう？豆が鳩鉄砲喰らった様な顔して？」

「いきなり、最初のキャラがGoddess Justiceとか

……無いわあ」

「…か、もしかしたらこれから改変キャラが出るってことか？

「いやいや、それはもうないですう」

作者もコレ書いてる時に「ふざけんな！MUGEN知らねえ人がわかんねえだろうが！！」って友人に殴られてたから懲りてもうしないとおもってますう。」

ちよっwwwメタ発言禁止

「つーことは、主人公設定も・」

「はいっ モチロン変わるですよ。」

まったく、ホントに役立たずな作者もいたものですよ」

作者「ハアハア、よっ幼女に罵倒されて感じてないんだからな」

作者フェードアウト

「なんだった？今の。」

「現代文の評定が低いクセにチートオリ主の小説書こうとした奴の末路です」

ナニモキコエナイ……ナニモキコエナイ……
作者

テラ哀れwww

「てな事で、また籤を引くです」

「おk、把握」

少年くじ引き中……

くじ引き結果

オズワルド（KOF）

Mr・カラテ（KOF）

ゲーニッツ（KOF）

大門五郎（KOF）

ルガール（KOF）

イグニス（KOF）

トキ（北斗の拳）

東方不敗（Gガンダム）

ジエネラル（カイザーナツクル）
無界（KOF）

KOF成分高めwww

「ちよつ、作者どんだけKOF好きなの？」「まあまあ、良いじゃん良いじゃん。強いことには変わり無いんだし」
まあ、そりゃそうだけど……

「そして、君にはこの部屋で完ぺきに力を使いこなす修行をしてもらうですう」

ババアーン、と効果音が聞こえそうな風に無い胸を「ぶち殺すですよ？」スイマセンしたー！
ジャンピング土下座in真っ白の空間

「まったく、何を考えてるのですう」

この部屋は、外界に比べて時間の流れが早く、外界の1日がこの施設の中では365日に相当するのですう」

「え、それって精神とok「ダメですう！それ以上言ったら世界の修正力に消されるのですう」」

30分後……

「OK、OK、この部屋は外界に比べて時間の流れが早く、外界の1日がこの施設の中では365日に相当する部屋で良いんだな？」

「そう……ですう…分かってくれて…何よりですう…」

異様に疲れてる神様（幼女）www

なかなかそそる光景だがYesロリータ、Noタッチを忘れない俺

ではないぜ

「それじゃあ、この外界に比べて時間の流れが早く、外界の1日がこの施設の中では365日に相当する部屋で力を使いこなす修行をしてくださいですう…」

「OK、つまり、この外界に比べて時間の流れが早く、外界の1日がこの施設の中では365日に相当する部屋の中で力を使いこなす修行をして、力を使いこなせるように為れば「はいっ、元の世界に戻してあげますう！チャンと左腕も戻してあげますう」」

よし、チャンと左腕を戻してくれるようだ。

今度こそ、ジャステイスを殺るために、

「それじゃあ、行ってくる。」

「頑張つて行ってくるですう」

後ろから、ゼウスの声を聞きながら俺は外界に比べて時間の流れが早く、外界の1日がこの施設の中では365日に相当する部屋の扉を潜った…

そして、18年の月日が流れた…

「今日も、出てこないっばいですう…!?!」

ゼウスが帰ろうとした時、外界に比べて時間の流れが早く、外界の1日がこの施設の中では365日に相当する部屋の、扉が開いて中から蒼原当夜が出てきた。

「やっと、終わったぜえ。」

「ずいぶんと、時間がかかったのですね？」

「いやあ、ジエネラルのワープが上手くできなくてさあ、もっと早く帰って来るつもりがこんなに遅くなっちまったよ。」

ジョインワープが、マジで難しかった、ポイント間違えるし…

「残念なお知らせがあるですう。」

「残念なお知らせ？」

「はい、あなたはジャステイスを倒すために頑張ってましたが、時間がかかりすぎた為に、聖戦が終わっちゃったですう」

……………はあ？

「まあ、いいや。」

「良いんですか！？ジャステイスもう多分出てきませんよ！？」

「俺は、ブリジットとイチヤイチヤできればそれで良し。」

「はあ、わかったです。それじゃあ、ブリジットの近くに転移させるですう」

後、名前も変えた方が良いと思うですう」

確かに、蒼原当夜じゃジャパニーズっぽい感じだからな、違う名前、違う名前、

「決まったぜ、新しい名前「なんですかあ？」アーデル・バーンシユタインだ」

「アーデル・ですか？良い名前ですう」

それじゃあ、あなたを元の世界に戻してあげますう、じゃあまたいつか会いましょうですう」

そして、また足下にスキマっぽいのが広がって俺は、落ちていった……

ブリジットたん、今会いに行くぜえ

チート過ぎる力持っても、使いこなせなきゃ意味ないですう by ゼウス（後

痛い、友達に殴られてボディが滅茶苦茶痛い鯉クリームです。

これからは、コメディーがメインになるので戦闘は少なくなると思
います。ご了承下さい。

では最後に、この物語は現代文の評定が低い作者が書いています。

過度な期待はしないでください。指摘などを下さると作者は狂喜乱
舞します。

第3話 男の娘登場！！by アーデル なんか字が違う気が…

by ブリジット

Side ブリジット

「はあ、はあ、はあ

なんでウチが…オオカミサンに追われなくちゃいけないんですか…」

あつ。はじめまして

ウチの名前は、ブリジットって言います

女の子に間違えられますけど、ウチはちゃんとした、男の娘なんですからね（プンプン

男の娘…？なんだか字が違う気がするの、ウチの気のせい？

って、今はそんなこと考えてる時じゃなかったでした！

「オオカミサン！

ウチを食べてもおいしくないですよ？

だから、ウチの事を諦めてくれませんか？」

ウウウウウウウウ

（はううう、ぜんぜんオオカミサン達諦める気ないです…
まったく、ホントにどうしてウチがこんな眼に…）

少し前までは、街でヨーヨーでロジャーさんと一緒に芸をして、おひねりもらってたのに…

いま思えば、あの街は変だった気がしますっ！！

おひねりくれた人たちの視線が

その…

あの…

エッチな感じがして／＼／

バウツ！バウツ！

（ひゃっ、／＼／

そうでした、今はこの状況を何とかしなくちゃいけません。
しかたないです、やりたくなかったですけどこのオオカミサン達に
は…）

「少し、痛い目にあってもらいますね」

ウチはヨーヨーを持って…あれ？

ウチのヨーヨーがない？

どこにいつちゃったんだろう？

あっ、在りました

ありましたよ！！オオカミサンの足の下ですけど… ふええ

「うつウチは、おいしくないですよ？

だから、だから、どっかに行ってください」

グルルルル、バウツ！

（お父さん、お母さん。ブリジットは森の中でオオカミサン達のご飯になって先に天国へ行きます。……死ぬ前に、お兄ちゃんに逢いたかったな……）

……の……に……
ひ……の……めに……

「人の嫁につナニしようとしてんだ、クソ犬共が！」

遠のいていく、意識の中で最後に見たのはカッコイイお兄さんでした……

S i d e ブリジットout

S i d e アーデル

よっ、皆のアイドル アーデルお兄さんだよお

スマン、なんか変な電波を受信した

（アーデルお兄さんだよお（笑））
イラッ

「サイコクラッシャー」
（みぎやああああ）

まったく、ホントにどうしてこんなのがゼウス何だか？

（あたたた、もう痛いのですう）

うるさいお前が悪い。

「っか、なんで頭ん中にお前の声が聞こえんの？（それはですねえ、
貴方の事をかんさゲフンゲフン観察するためですよ）」

「何で、言い直した!？」

（そんなに大きな声出していると、アレな人に見えますよ？ほら、今だって後ろから）

「ヨホホホホ、何処かぐあいが悪いんですか？」

アーデルは、見知らぬ街で、紙袋を被った男に出会った。

（次回に続くですう）

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1163m/>

ギルティギ.....あれっ？

2010年12月18日14時46分発行